

カンキツ新品種に発生した萎縮症状と発生原因の解明

近年、新品種への更新が積極的に行なわれているが、一部において生育不良の更新樹が確認されている。その症状は健全樹と比較して明らかに萎縮しており、特に‘せとか’や‘西之香’では激しい奇形葉、小葉および枝の叢生が確認された（写真1～3）。また、この症状は、多くの場合春梢においてのみ認められ、夏秋梢では確認されないことからウイルス性病害の可能性が推察された。

そこで、県内の52の新品種更新株についてカンキツの重要なウイルスおよびウイロイドであるカンキツタターリーフウイルス、温州萎縮ウイルス、カンキツエクソコーティスウイロイドについて感染状況を調査したところ、温州萎縮ウイルスのみがすべての株から検出された（表1）。これらの結果から、カンキツ新品種で発生した萎縮症状は温州萎縮ウイルスによるものと考えられた。

カンキツに発生するウイルス性病害は、栽培技術の開発、改善では解決できない生産性



写真2 叢生症状(せとか)



写真3 萎縮症状を呈した西之香
(左:健全樹, 右:発症樹)



写真1 奇形・小葉化症状(せとか)

の低下等をもたらすだけでなく、一度保毒したウイルスは取り除くことができないため長期的な被害を及ぼすことになる。特に温州萎縮ウイルスでは発生状況から土壌を介して伝染することが推察されており、このウイルスによる被害が出やすい品種は栽培できなくなる恐れがある。

しかしながら、現在のところは発病後の的確な防除対策がないため、品種更新にあたってはウイルスフリーが明らかな苗木または穂木を用いることが必須である。

(主任研究員 清水 伸一)

表1 調査樹の病徴とCTLV、SDVおよびCEVdの保毒状況

| 品種 | 症状 | 調査樹数 | CTLV | SDV | CEVd |
|-----|-------------|------|------|-----|------|
| せとか | 奇形葉、小葉、枝の叢生 | 40 | — | + | — |
| せとか | 無病徴 | 5 | — | — | — |
| 西之香 | 奇形葉、小葉、枝の叢生 | 2 | — | + | — |
| 西之香 | 無病徴 | 2 | — | — | — |
| 天草 | 小葉 | 3 | — | + | — |

注) CTLV: カンキツタターリーフウイルス、SDV: 温州萎縮ウイルス
CEVd: カンキツエクソコーティスウイロイド、+: 陽性、-: 陰性を示した。